

探究通信

2024 (第3号)
富山県立高岡高等学校

2024年10月発行
編集 探究科学委員

フィールドワークで立山の自然や歴史学ぶ 1年探究科学科 立山実習

7月30日(火)、1年探究科学科が立山実習に行ってきました。荒天のため一部の行程が変更になりましたが、生物・地理・歴史・地学の4班に分かれてフィールドワークを行い、立山について学びを深めました。各班の活動を以下に報告します。

生物班



室堂周辺の植物を観察

アルペンルート沿いの植生を調査し、自生する植物の特徴を学びました。室堂・弥陀ヶ原での植物の観察、立山自然保護センターの見学を行いました。

【感想】標高が上がるにつれて植物が低く、細くなるなど、標高と植物の関係を実際に目で見て知ることができました。

歴史班



立山博物館で曼荼羅を鑑賞

立山博物館で学芸員の方のお話を聞いたり、資料を見たりして、立山信仰や立山曼荼羅について学びました。

【感想】大雨だったため室堂までは行けませんでした。その分多くの絵や資料を見て知識を増やすことができました。

地理班



職員の方の案内で発電所を見学

新港火力発電所、太陽光発電所、有峰ダム、和田川第2発電所、大山歴史民俗資料館を見学しました。

【感想】エネルギーのベストミックスについて考え、立山に合った発電方法やCO₂削減目標について意見を出し合いました。私たちの意識の改善が持続可能な発電につながるとわかりました。

地学班



先生の解説に耳を傾ける

雨の影響で予定されていた野外での実習はできませんでしたが、立山自然保護センターで地形模型を観察したり、空撮映像を視聴したりしました。

【感想】気圧の測定と大転石の計測が主な活動となりましたが、仲間と協力することで有意義な時間に行うことができました。

絵本に込められた工夫を考察 2年人文社会科学科 高志の国文学館研修

7月22日(月)、2年人文社会科学科は高志の国文学館を訪問し、研修を行いました。常設展と企画展「しあわせにな〜れ!長谷川義史のえほん展」を鑑賞した後、ワークショップに参加しました。

常設展では、富山にゆかりのある作家やその作品の展示を見て、富山文学についての理解を深めました。また、企画展では、『しげちゃん』や『いいからいいから』などで知られる長谷川義史さんの絵本原画を鑑賞しました。絵本よりも大きな絵に近づいて細部までじっくり見ることができたので、墨を使って描かれた太い線の迫力や背景の細かい描きこみへのこだわりを感じました。

ワークショップでは、絵本の絵を読む活動を行いました。グループごとに絵に込められた工夫や仕掛け、絵本の主題を読み解きました。何度も読み返しながら話し合っていくと、登場人物の距離や背景色による心情表現、絵のみで表現されたストーリー展開など、工夫がたくさん散りばめられていることに気づきました。絵本の絵の一つ一つには作家の思いが込められていて意味があるのだと改めて実感でき、有意義な研修になりました。



絵の工夫についてグループで考察

高度な実験で科学の面白さを実感 2年理数科学科 総合教育センター実習

2年理数科学科は、7月22日(月)と23日(火)の2日間に分かれて、県総合教育センターで実習を行いました。物理・化学・生物・地学の4講座から2講座を受講し、学校では使用できない実験機器を使って高度な科学実験を体験しました。

真剣な表情で実験に取り組む



化学班

頭痛薬を粉末状にしたものに塩化鉄(III)水溶液を加えた時の変化を観察したり、赤外分光光度計によるスペクトル解析を行ったりしました。普段は扱うことのない薬品や装置ばかりで苦労しましたが、講師の先生の補助のおかげで実験をやり遂げることができました。

生物班

ウシガエルを使った解剖実験を行い、臓器や口腔内を観察しました。心臓を摘出する際、心臓を手でつかんで周りの筋を切るのですが、洞房結節(心臓の規則的な拍動のための電気信号を発する部位)の働きによって、心臓は血管を切ってもしばらく動いており、その拍動が手に直接伝わってきたのが印象的でした。

協力してカエルの解剖に挑戦



～編集後記～

- ・大雨の中での活動となり、予定通りにはいかなかったが、そんな中でも多くの学びを得ることができた。(1年探究科学委員)
- ・高度な実験ばかりで不安もあったが、なぜその実験をするのかから丁寧に教えてくださったので、楽しく学ぶことができました。設定された課題をクリアし、そこから生まれた新たな疑問を解決するというサイクルを回すことで、知的探究心が刺激された。(2年探究科学委員)